

～県立学校医療的ケアガイドラインの改訂を踏まえた教育活動の充実に向けて～

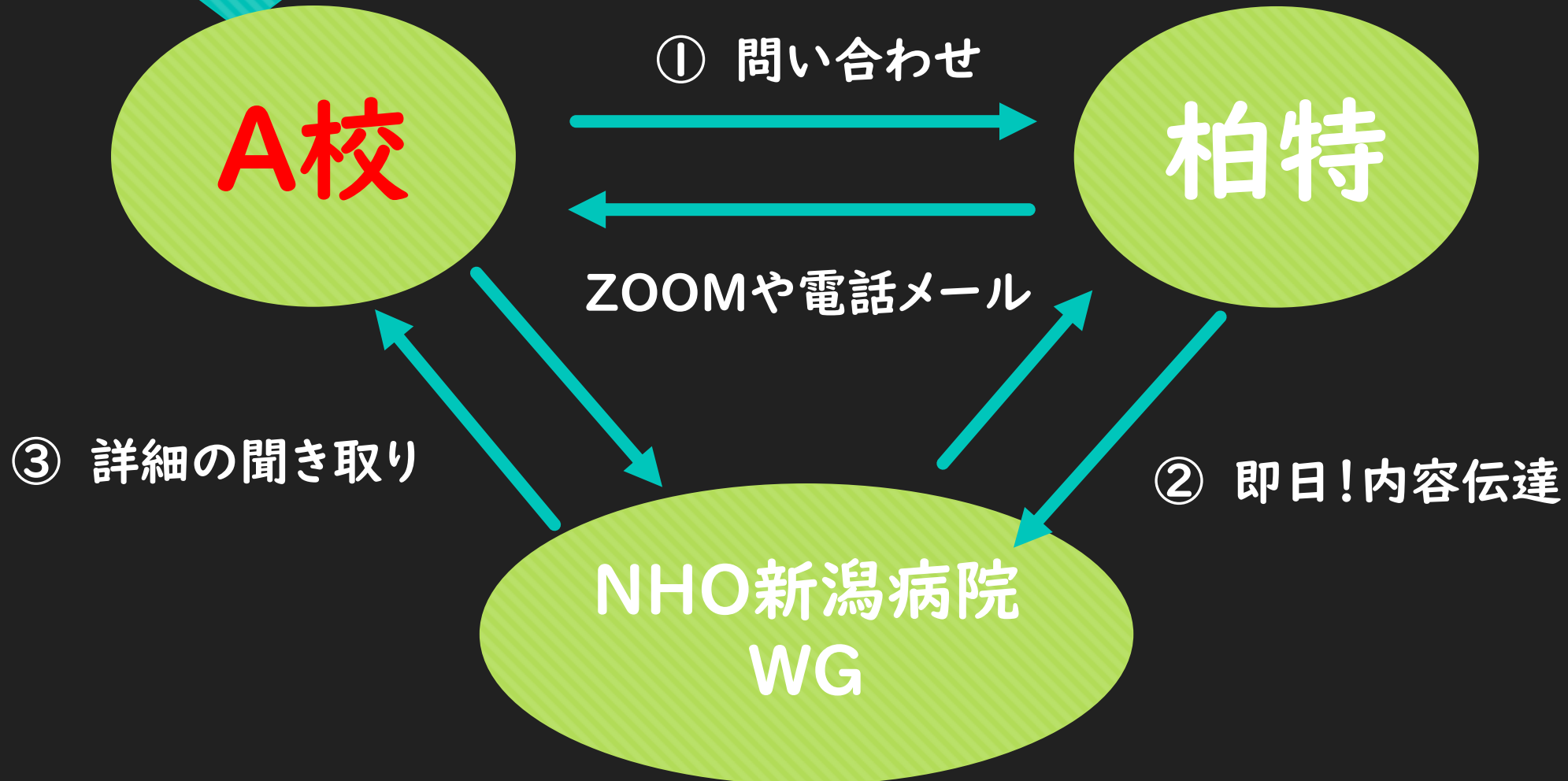
中核校としての役割

新潟県療育研究会 第5回学術集会
令和3年9月11日(土)

話題提供者:新潟県立柏崎特別支援学校
教諭 郷 広子

中核校として具体的にはどんなことをするの？

問い合わせや相談が入った場合 **即日、新潟病院と連携開始！**



お願いをしていること

コロナ禍ですが、顔を見ながら話し合い

- テレビ会議では、学校看護師や担任の先生方に出席していただけるよう依頼
- 事前に共通理解を図ることがねらい。
- 人工呼吸器装着実施後は、**教員がアラームや児童生徒の様子の変化に気付くことが多い。**
- 移動や活動の時に配慮する点があるので確認が必要。

中核病院・中核校側では、人工呼吸器の取り扱いに精通した学校看護師、WGの担当の方、その他臨床工学士や医師などに出席を依頼しています。様々な意見を出し合う貴重な時間になります。



児童生徒が人工呼吸器を装着して登校すること

- ・保護者の負担減。(家族の心の余裕)
- ・継続した学習活動
- ・登校日数の増加。

